

東京大学総長選考・監察会議議長所信表明

—議長就任にあたって—

私は2011年から当大学の経営協議会委員（学外委員）を、また、昨年度から総長選考会議委員をさせていただいていますが、本年6月8日に開催された総長選考・監察会議において議長に選出されました。

総長予定者の選定や総長の解任の申し出等を行う総長選考会議は、国立大学法人法の改正により今年度からその役割が拡大し、総長の業務執行状況の確認も任務に追加され、会議の名称も総長選考・監察会議となりました。

また、東京大学の場合、2020年の総長選考プロセスの公正性・透明性に問題があるとして、学内外から要望書や質問状が出されたことをきっかけに「総長選考会議の組織検討タスクフォース」（2020年度）や「総長選考会議の組織検討ワーキンググループ」

（2021年度）が設置され、これらの検討結果を受けて、今年度からは会議の構成員の任期や選出方法等が変更になりました。例えば、経営協議会学外委員の中から選ぶ総長選考・監察会議の委員候補者については、総長の関与を排除するため、学外委員全員から成る学外委員候補者推薦委員会が設置され、当委員会において、今般新たに定められた選考方針や選考基準に則り、候補者リストの作成が行われました。また、選考理由及び略歴が初めて公表されました。

本会議の運営の在り方については、前年度の総長選考会議が1年かけて検討をした結果、今年度からは、議長の選出方法（選挙による委員の互選）、傍聴、議事録の公開、監事の陪席等についての新しいルールに基づき運営されています。

今年度の会議の審議内容ですが、前年度からの「申し送り事項」について検討に着手したいと思います。具体的には、総長選考プロセスにおける検討課題が相当数あげられていますので、2026年度に予定されている次期総長の選考に向けて、どのようなスケジュールでどのような手順で検討するかについて工程表を作成することになります。このほか、総長の業務執行状況について総長との懇談、監事との懇談等を通じて恒常的に確認を行うこと、また、総長の賞与に反映させる職務実績の評価を行うことについても、初めて取り組むこととなります。

上述しましたように、東京大学のガバナンスの強化を目指して総長選考・監察会議も様々な改革に取り組んでいます。議長として、中立・公正な議事運営と活発な意見交換のために微力ながら最善を尽くしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

2022（令和4）年7月15日

東京大学総長選考・監察会議議長 岩田喜美枝